

2025年度 保育事業部報告

●2024～2026 3か年ビジョン

「地域から必要とされる保育園」

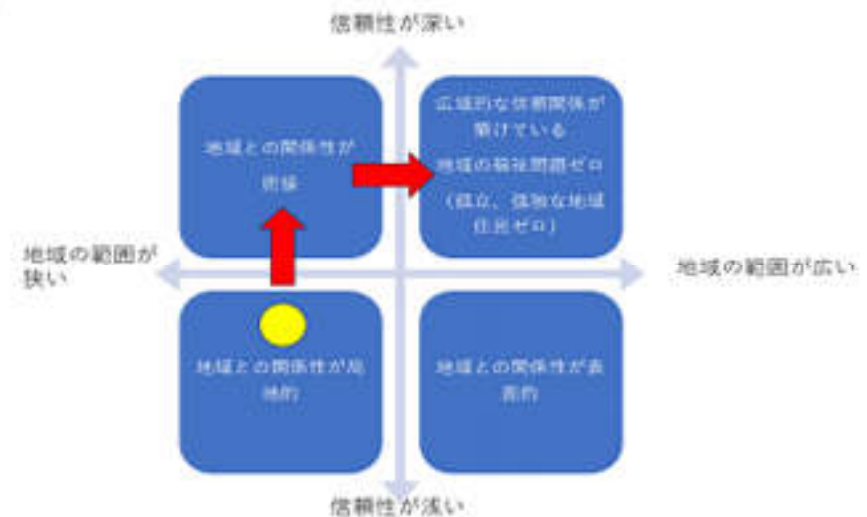
～2025年度テーマ「それぞれの園のコンセプトが知られている状態」～

●戦略課題（変革認識）

地域の公共施設、学校、児童館、子ども家庭支援センター、町会など、自園を拠点に半径1キロの範囲にある施設等との繋がりを強化。各園のコンセプトを発信し、保育園の存在が地域コミュニティの形成を広げる契機となる

●目指すポジション

地域住民との関係性が局地的な状態から、いつでも保育園に立ち寄れてみんなが集える密接した関係性へ。



●戦略展開（重要成功要因）

KSF 1：語る上司と共感している仲間（コンセプトの設定）

KSF 2：サービスの標準化（子どもの育ち・情報の5S、BCP策定・運用）

●実行・振り返り

KSF 1：語る上司と共感している仲間（コンセプトの設定）

<取り組み>

各園コンセプトを打ち出す。ひまわりの強みはエリア展開で近い距離に姉妹園があること。子育て支援のすべてを1園で担わなくても、園ごとに特色を打ち出し、それぞれの園で支援範囲と役割を決め、地域の子育て支援を進めていく。また、そのコンセプトをまずは職員に理解を深めてもらう取り組みを行った

報告日：2026年5月28日
 所属名：保育事業部
 報告者：事業責任者 柴崎 瞳
 事業責任者 瀬尾季子

【各園のコンセプト】

大原：リトルハグ

妊婦さんから乳幼児まで 一人ひとりに寄り添う保育

小茂根：大きなおうち

地域の方と一緒に誰もが安心して集える居場所

東雲：東雲ハーバー

人・モノ・情報が行き交い出会いの学びが生まれる場所

志村：縦長長屋で四世代共生

様々な世代間が交流する場。世代を超えて、互いに学ぶ・支える場の提供

豊洲：リフレッシュガーデン

歩育を通して地域の中の癒しと繋がり場の提供

有明：ダイナミックキッズタウン

オープンスペースを活かしたひまわりの保育を地域社会に発信・共有する

有明の森：街のサロン

地域のだれもが気軽に訪れ、安心して過ごせる空間を提供

城山：18歳までの居場所

保育園をすべての子ども達の居場所に。小中高生も対象にした居場所を提供

○主なPR先

| 園名 | 主な地域活動 PR 先 |
|------|---|
| 大原 | さかうえ児童館・清水児童館・大原東町会・志村第二小学校 ハートライン清水町（療育施設）・サニーヒル板橋（高齢者施設） |
| 小茂根 | 小茂根図書館・向原児童館・上板橋第二小学校・上板橋第二中学校 小茂根二丁目町会 |
| 志村 | さかうえ児童館・志村図書館・巣鴨信用金庫・志村第二小学校 志村第四中学校 |
| 城山 | 志村児童館・志村小学校・上板橋第三中学校・北前野小学校・志村第四中学校 志村村山町会 |
| 東雲 | 第二辰巳小学校・認証保育所ハイブリッドーمام・東雲キャナルコートファミ リーマート・イオン |
| 豊洲 | 豊洲町会・豊洲ルネッサンス・8園交流（近隣公私立保育園交流） 豊洲商友会、豊洲町会 |
| 有明 | 有明図書館、子ども家庭支援センターみずべ・有明西学園小学校 有明ガーデン・有明マンション連合会、有明小学校 |
| 有明の森 | 有明西学園・木場プレイ冒険広場パーク・江東区里親会・有明テニスの森 |

報告日：2026年5月28日
所属名：保育事業部
報告者：事業責任者 柴崎 瞳
事業責任者 瀬尾季子

<成 果>

- ・地域すべての子どもを対象とした居場所作りをすることで、利用者はもちろん、地域の子育て世帯、商業施設、公共施設等と連携を図ることが出来た
- ・各園の地域活動や育児講座等を通してコンセプトを知っていただく機会が増え、興味を持って保育園を利用して下さる地域の方が増えている

KSF2：保育サービスの標準化（子どもの育ち・情報の5S、BCP策定・運用）

子どもの育ちを引き出すための大人の関わりを標準化させるため、エリアごとに主任会議を月1回実施。主任間で保育提供価値観を揃え、利用者が安心して過ごせる場を目指す

<取り組み>

湾岸：エリアの主任が集まり、保育サービスの標準化に向けて保育レシピの作成、各園の会議にて主任からレシピを説明する。

城北：子どもの育ちをより具体的に把握するため、毎月、指導計画におけるねらいと内容の重点項目を定め、それに基づいた保育活動を実践した。年齢ごとに、生活習慣の獲得や遊びを通して培われる知性、人間関係の広がりを育む

<成 果>

湾岸：各園の保育活動の中で展開される遊びが標準化されてきている

城北：重点項目を定めたことで、乳児ではトイレトレーニングや衣類の着脱の習得が進み、幼児では、やってみたいことを試したり考えたりする機会を通して、遊びの発展が見られるようになった。

ひまわりキッズガーデン大原 2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区大原町13番1号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 36名 | 35名 | 36名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 0歳児 | 6名 | 5名 | 6名 | 1名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 3歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 4歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 5歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 20名 | 22名 | 1名 | 1名 | (1名) |
| 園長 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育士 | 16名 | 16名 | 1名 | 1名 | (1名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 1名 | 3名 | 0名 | 2名 | (0名) |
| 用務 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・各主任が4つの視点を理解し、月案に反映できるようにする。
- ・職員全員が主任会議の内容を理解し、実践に活かせるようにする。

振り返り・課題

2025年度は、主任が4つの視点を理解し、それを月案へ反映できるようにすることを目標として取り組んでまいりました。主任会議では月案をより深く検討し、その内容を職員へ共有する流れが定着してきております。会議での分析内容を受け、職員が保育計画を作成する際の視点が明確になり、計画自体もその月に必要な活動が分かりやすい形で整理されるようになりました。

また、保育計画に対する実践状況を把握するため、日々の日誌から実行率を算出する仕組みを導入いたしました。この取り組みにより、計画と実践のズレが見えやすくなり、実行率が伸びなかった項目を翌月の改善に活かす循環も生まれています。職員一人ひとりが、自身の保育を振り返る機会を得ることにつながり、保育の質を高める姿勢が徐々に浸透してきました。

目標として掲げた「主任会議内容の共有」についても、職員が会議内容を日々の実践に結びつける場面が増えてきており、組織として保育方針をそろえていく基盤づくりが進んだ一年となりました。

課題は、今年度の取り組みで築いた基盤をさらに発展させ、主任だけでなく職員全体が4つの視点をより深く理解し、保育計画や日々の実践に一貫して反映できる体制づくりです。特に、主任会議で議論した内容の伝達方法をさらに工夫し、職員が「どのように自分のクラスで活かすか」をイメージしやすい共有方法へ改善してまいります。実行率の算出についても、データをどのように振り返りへ結びつけるかを見直し、改善につながる分析力の向上が必要になります。

また、計画と実践の循環をより自然に回せるよう、職員が日誌・計画・実践のつながりを理解し、自主的に改善を進められる環境づくりを進めてまいります。組織全体として保育の質向上を目指すため、主任の支援体制の強化や、職員間での学び合いの機会も増やしていく予定です。

② 人材育成

目標

- ・職員がスキルアップできるような、パートナー制度を確立する
- ・保育士のスキル（音楽、絵画、運動など）を標準化し、具体的な目標を設定（例：音符が読めるようになる、ピアノの特定の曲を弾ける）

振り返り・課題

2025年度は、職員がスキルアップできるようパートナー制度の確立と、保育士の専門スキルを標準化し具体的な目標を設定することを目標として進めてまいりました。パートナー制度では、毎週月曜日の30分を使い、パートナー同士で悩みや気づきを共有する時間を設けました。この時間は、保育士一人ひとりが自身のスキルや良いところを認め合う場となり、職員からは「心にゆとりが持てるようになった」「話しやすくなり助け合いが自然にできるようになった」といった声も増えております。結果として、職員同士の関係性がより良好になり、協力し合えるチームづくりにつながりました。

また、スキルの標準化に向けて、ピアノ・手遊びなど各分野で具体的な目標を示すことで、職員が自身の課題を明確にできるようになりました。この見通しの持ちやすさから、勤務後に自主的にスキル練習に取り組む職員も増えており、学び続ける姿勢が職場全体に広がっております。以上の取り組みにより、職員のメンタル面・専門性の両面で前進が見られた一年となりました。

課題は、来年度に向けてリーダー層が主体的にチームを導く存在として成長できるよう必要なスキルアップを図ることに加え、職員一人ひとりがより広い視野を持てるよう、外部研修や内部研修の取り入れ方を工夫し、学びの幅を広げていくことが挙げられます。これらの取り組みを通して、園全体の専門性を継続的に高めていく体制づくりを進めてまいります。

③ 運営管理

目標

- ・施設全体で共通の目標に向かって進むための基盤を整える。
- ・3園間の交流を通じて、情報共有と連携を強化する。

振り返り・課題

2025年度は、施設全体で共通の目標に向かって進むための基盤づくりと、3園間の交流を通じた情報共有・連携強化を目標として取り組んでまいりました。3園の職員会議を共同開催したことで、園を越えた情報交流がスムーズになり、保育の悩みを担任クラス別に話し合える機会を生み出すことができました。この取り組みは、他園の考え方や実践を知るきっかけとなり、職員同士がお互いから学び合う姿勢にもつながっています。

また、新しい視点や保育方法に挑戦できる環境を整えるため、人材面・物的環境の両面で充実化を図りました。新しい活動に必要な物品を揃えるなど、保育者が「やってみよう」と思った時に実行しやすい環境を整えたことで、現場に前向きな空気が生まれています。以上のように、園全体で共通目標へ向かうための土台づくりが進み、3園の連携も前年より一歩前進した一年となりました。

課題は、来年度に向けて3園間の会議体や交流機会をより実践的に活かし、各園で生まれた新しい取り組みを共有し合いながら、組織全体の保育の質向上につなげていくことが挙げられます。そのため、共通の目標に向かうための基盤をさらに強め、園ごとの課題を明確にしたうえで、必要に応じた支援体制を整えていくことが求められます。

また、新しい保育に挑戦できる環境づくりについては、今年度整備した物的・人的資源を活用しながら、職員が主体的にアイデアを試せる風土をさらに育てていく必要があります。職員間の学びが継続的に循環し、3園が相互に刺激し合える関係性を築くことを目指して、取り組みを進めてまいります。

【施設整備状況】

施設整備状況

- 4月：顔認証ドアシステム導入
- 7月：職員用キーレスロッカー購入
- 9月：2階大人用トイレ改修工事
- 9月：複合機入替
- 10月：園庭工事（砂場新設、丸太山造成）
- 11月：排水管高圧洗浄
- 1月：エアコンクリーニング/トイレクリーニング

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

- 4月：入園式、保護者会
- 5月：こどもの日、5歳田植え遠足
- 6月：個別面談、水遊び開始
- 7月：七夕、5歳一日特別保育
- 8月：夏祭り
- 9月：引き渡し避難訓練、5歳親子稲刈り遠足、敬老会
- 10月：幼児運動会

- 1 1月： 個別面談
- 1 2月： お遊戯会、クリスマス、もちつき
 - 1月： お店屋さんごっこ
 - 2月： 節分、0～4歳児保護者会、
 - 3月： ひなまつり、5歳児保護者会、卒園式、5歳児お別れ遠足、お別れ会
- ※通年： 保育参加期間
- ※誕生会（園児の誕生日毎）

【苦情内容及び結果の公表】

件数：0件

保護者の皆様からは、苦情やクレームといったご意見はございませんでした。一方で、「写真販売の期日を忘れてしまうため、保育園からリマインド案内をしてほしい」といったサービスの質を高めるご提案をいただきました。このご意見を受け、園だよりおよび保護者会において、今後は写真販売の期日についてリマインド案内を行うことと、その具体的な方法について説明を行いました。保護者の皆様からいただいたご意見を踏まえ、適切に対応いたしました。

【その他】

① 安全管理

- ・防災訓練
 - 毎月1回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施。
 - 9月 引き渡し訓練の実施
- ・健康管理
 - 園児：毎月乳児健診、年2回全園児健診、年2回歯科検診、毎月身体測定（0歳児2回）
 - 職員：年1回 定期健康診断・インフルエンザ予防接種、毎月 細菌検査の実施、
 - 健康管理には最善の注意を払い、感染症の発症についてはコドモン配信・掲示にて保護者に連絡。入室前の手指消毒（アルコールを使用）の徹底。
- ・衛生管理
 - 危険箇所、施設の衛生管理についての点検整備を実施。
 - 保育室及び玩具等の消毒、感染症対策として施設の消毒状況を徹底する。
 - 室内害虫駆除及びネズミ駆除（年2回）
 - オゾン発生器設置（感染症対策、空気清浄効果）
- ・安全管理
 - 施設設備点検（月1回）
 - 保育環境の整備（施設内の壊れ修繕、安全クッション、ガードの設置）
 - 事故防止：メッセージグレード、ヒヤリハットを活用した再発防止・ケース検討
 - SIDSの防止（午睡時睡眠チェック）
 - 不審者対応訓練（年1～2回）

② 地域交流

- ・ 入園前の園見学随時実施
- ・ 育児講座、保育所体験の開催。園内の様子や園児が過ごしている様子を見てもらい、園の良さを感じてもらえる機会を作る。地域の子育て家庭が複数参加し、数回訪れる家庭もあった。
- ・ 地域の児童館等に園長や職員が出向き、園のイベントの案内の掲示・配付。

③ 実習生・ボランティア

職業体験・・・志村第二中学校・志村第四中学校・板橋第三中学校（合計6名）

職場体験・・・北豊島工科高校・練馬工科高校（合計3名）

子育て支援員実習・・・（1名）

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

回答率81% 大変満足・満足100%

職員の丁寧な対応や創意工夫に感謝しており、連絡帳や写真で子どもの様子や成長が分かり安心して預けられると評価する意見が寄せられた。一方で、「写真販売の期日を忘れてしまうため、保育園からリマインド案内をしてほしい」といった要望については、園だより・保護者会にて回答し対応しています

ひまわりキッズガーデン小茂根 2025年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区小茂根二丁目11番12号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 60名 | 60名 | 61名 | +1名 | ▲1名 | +1名 |
| 0歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 7名 | 7名 | 7名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 7名 | 7名 | 7名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 3歳児 | 15名 | 14名 | 14名 | 0名 | +1名 | ▲1名 |
| 4歳児 | 15名 | 15名 | 14名 | ▲1名 | +1名 | +4名 |
| 5歳児 | 10名 | 10名 | 10名 | 0名 | 0名 | ▲2名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 17名 | 17名 | 3名 | 4名 | (1名) |
| 保育士 | 14名 | 14名 | 3名 | 3名 | (1名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 用務 | 0名 | 0名 | 0名 | 1名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・ こどもが経験すべき保育活動の提供
- ・ 地域活動のアップデート

振り返り・課題

サービス領域（保育・地域連携）では、新たに仕組化した『保育計画』実行率が概ね目標水準に達し、計画に基づく保育実践が安定化してきました。

すくわく（自然・造形）や散歩等の体験活動を通じて、利用者アンケートでは「家庭では得られない経験ができています」との評価が増加しており、保育の提供価値が保護者に適切に伝わっていることが確認できました。

また、「こもね食堂」をはじめとした地域活動の定着や動画配信等の発信強化により、地域住民との接点も広がりました。

一方で、園見学者アンケートからは、主体性を育む保育に対する認知は高まっているものの、異年齢保育や地域との育ち合いといった当園の特色については、十分に伝わっていない現状が明らかになり、次年度の課題として位置づけられました。

② 人材育成

目標

- ・ 正常な環境を保てる認識チェンジ

振り返り・課題

職員領域（組織運営・業務標準化）では、5Sチェックの導入により、施設・設備・清潔さ・安全性に関する利用者評価が向上し、6月以降は総合満足度100%を維持する結果となりました。

LINE Works を活用した気づき共有やパートナー面談の継続は、職員間の情報連携および改善行動の活性化に寄与しています。

一方で、5S運用や気づきの発信には職員間で差異が残っており、運用精度の均質化と仕組みの定着が次年度の重要な取り組みとなります。

③ 運営管理

目標

- ・ 組織内貢献意欲の維持向上

振り返り・課題

リーダーシップの領域では、カタグルマシステムを活用した目標管理を本格的に運用し、主任・リーダーによる実践モデルの提示や、職員面談の体系化、乳幼児会議を通じた振り返りの仕組み化を進めました。

これにより、学びが実践へと結びつくプロセスが可視化され、組織としてのPDCAサイクルが従来より安定して運用されるようになりました。

また、職員の気づきを起点とした業務整理の取り組みが広がり、改善提案が園全体で共有されるようになったことは、組織内貢献意欲の向上に寄与した成果といえます。

【施設運営状況】

利用者・地域

- ・ トイレ洗浄
- ・ 床、階段クリーニング
- ・ エレベーター修理
- ・ 1階エアコン交換工事
- ・ 顔認証システム設置工事
- ・ 中庭砂場リニューアル工事

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

月例：誕生日会・避難訓練・保育参加

4月：入園・進級お祝い会

5月：こどもの日の集い

6月：個別面談

7月：七夕集会・お楽しみ DAY（5歳児特別保育）・卒園児交流

8月：縁日ごっこ

9月：引き渡し訓練・保護者会

10月：運動会

11月：個別面談

12月：クリスマス会・餅つき会

1月：おゆうぎ会・個別面談（5歳児）

2月：節分集会

3月：ひな祭り集会・卒園式・お別れ会

【苦情内容及び結果の公表】

件数 2件

対応及び解決方法

- ・ 園長による面談及び職員指導
- ・ 第三者機関の介入による総合的な支援

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

①園児同士のトラブルをきっかけとした相手保護者への不信感や、園に対して職員のスキルアップや職員サポートの強化を望まれた。担当職員や園長との面談を通し、日常的な様子の共有や職員配置の工夫、スキルアップ研修の実施等の対応を行い、対応に理解を示された。

②子育ての悩みと職員対応への不満があり、適宜保護者ご希望に応じて面談を実施した。園では職員指導を行い、対応に理解を示されていた。保護者の子育て全般の悩みも多いことから、第三者機関と繋がりを作り包括的に支援を行うこととなった。

【その他】

① 安全管理

●防災訓練

- ・ 毎月1回避難訓練・消火訓練・通報訓練を実施した。年1回園児引渡し訓練を実施した。
- ・ その他、地域消防署や警察署と連携し、AED講習や不審者対応訓練を実施した。
- ・ 全職員が普通救命講習を実施、東京消防庁より「救命講習受講優良証」を授与された。

●健康管理

- ・0歳児は月1回、1歳児以上は年2回健康診断を実施した。
- ・歯科検診を年2回実施した。
- ・職員の健康診断を年1回、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・細菌検査を毎月実施した。
- ・健康管理には最善の注意を払い、感染症が発症した際は掲示や配信で保護者に知らせた。

●衛生管理

- ・園内の掃除や子どもが使用する玩具の消毒には電解水を活用し衛生管理を行った。
- ・感染症予防のため、必要に応じてアルコールや次亜塩素酸を使った園内、備品の消毒を行った。

●安全管理

- ・ヒヤリハット、メッセージグレードを活用し、再発防止に努めた。
- ・職員研修『危機管理研修』に参加した。
- ・午睡時の睡眠チェックを実施(SIDS防止)した。
- ・保育所内外の安全点検を月1回実施した。
- ・建物、設備点検を業者に依頼し実施した。

② 地域交流

- ・入園希望者の見学は見学会を実施し、園長による方針説明や質疑応答を丁寧に行った。それ以外にも、見学者の希望に沿って随時見学を実施した。
- ・保育所体験を取り入れ、園児と地域の子ども・保護者との交流を図った。また園長が育児相談を受け、行事へお誘いし、一緒に保育園の雰囲気味わっていただいた。
- ・育児、産前講座を行い、保育所の専門性を地域へも発信し支援を行った。
- ・図書館や児童館、あいキッズや小中学校等、地域の様々な事業所と繋がりを持ち、イベントを企画、実施した。

③ 実習生・ボランティア

- ・保育士実習生：実員3名
- ・日本児童教育専門学校の学生見学を2名受け入れた。
- ・小学校教諭の保育園実習を2名受け入れた。

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

回収率は90.2%、総合評価は、「大変満足」が67.4%、「満足」は28.3%、「どちらともいえない」が4.3%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて95.7%という、高い評価を得ています。自由記述では、「保育園のスタッフは皆、優秀で勤勉な印象を受けました。」「どの先生方も、こどもの気持ちを大切にしてくださって、安心してお願いしています。」「異年齢児、地域との交流が多く、色んな刺激を受ける機会が多いと感じる。」等のコメントをいただきました。評価機関からは園コンセプトを職員・保護者・地域への共有を進め、地域社会と連携した取り組みを行っていることを評価いただきました。

ひまわりキッズガーデン東雲
2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区東雲一丁目9番18-203号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 96名 | 88名 | 87名 | ▲1名 | +9名 | ▲1名 |
| 0歳児 | 9名 | 9名 | 9名 | 0名 | 0名 | +1名 |
| 1歳児 | 12名 | 11名 | 12名 | +1名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 15名 | 15名 | 14名 | ▲1名 | +1名 | ▲1名 |
| 3歳児 | 20名 | 18名 | 19名 | +1名 | +1名 | 0名 |
| 4歳児 | 20名 | 19名 | 16名 | ▲3名 | +4名 | 0名 |
| 5歳児 | 20名 | 16名 | 17名 | +1名 | +3名 | ▲1名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 22名 | 24名 | 3名 | 5名 | (0名) |
| 保育士 | 15名 | 15名 | 2名 | 2名 | (0名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 4名 | 5名 | 1名 | 2名 | (0名) |
| 用務 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 2名 | 0名 | 1名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

子どもの育ちを引き出す保育内容の多様化

振り返り・課題

「やってみたい」「やってみよう」「できた」が実現する保育園をめざして、子どもの育ちを引き出す保育内容の多様化に取り組んだ。

湾岸地域の主任会議で月案の内容や活動を標準化したものを各クラスにおろし、領域に偏りなく活動や遊びが展開できるようにした。各クラス担任は、研修や自己研鑽によって学んだ内容を実践に活かして新たな保育内容に挑戦することにも努めた。定期的に保護者にアンケートを実施して、保育内容に対して保護者や子どもたちがどのような反応を示しているかを把握し、保護者や子どもたちの声を保育に反映できるようにした。これらの取り組みを通して、保育内容の多様化を進めることができたと感じている。今後は子どもたちの意欲が”育ち”に繋がることができるよう、保育者の働きかけや関わり方を標準化していくことが課題と認識している。

地域活動は、地域の親子向け保育所体験を行うとともに、5歳児を中心として近隣のデイサービスや小学校1年生との関わりを持つことができた。地域向け保育所体験や、小学生向けの育児体験では多数の参加がみられた。アンケートでは、保育園での遊びや保育者の子どもへの関わりが参考になったという感想もいただいている。地域活動の定着と新たな取り組みも始めることができたので、次年度はさらに内容の充実を図ることで地域との関わりを深めていく。

② 人材育成

目標

個人のスキルアップをチーム力アップにつなげる

振り返り・課題

2024年度の取り組みの”職員個人の保育のスキルアップ”を土台に、2025年度は”個人のスキルを活かし職員同士が協力し合うことでチーム力をアップする”ことに取り組んだ。

若手やパート職員が多いというチーム編成から、経験年数の浅い職員が安心して働けるための基盤づくりを行った。毎月の職員会議では、保育・業務の基本を確認し共通認識のもとで仕事が進められるようにした。認識が定着したものもあるが、まだ理解にばらつきがあるものもあるため、基本の確認は継続して行っていくこととする。

③ 運営管理

目標

- ・職員同士がコミュニケーションを図り、連携できるチームづくり
- ・会議・打ち合わせ

職員会議（毎月月初に実施） …クラス・給食・看護・業務係からの報告連絡事項。園長・副園長からの連絡事項。園内研修。

パート会議（毎月職員会議後に実施） …職員会議（園内研修含む）の伝達 パート職員
の意見の収集

クラス会議（第3週） …当月の課題を踏まえた次月の計画の確認と共有。次月週案の検討。行動基準の見直しと更新。

乳児会議・幼児会議（第3週目） …乳児・幼児全体の共通事項や情報の共有。ひまわりの考え方に基づく保育を行なうために、発達や内容についての話し合いを行なう。

標準化会議（第4週目） …実行計画進捗の確認（園における課題を認識し、意図に沿った業務・保育の見直し・検討・提案を行う。）

職員会議の議事確認

昼礼 …午前中の子どもや保護者に関する事項の遅番への引継ぎ。怪我・体調・延長利用者確認・メッセージグレードとヒヤリハットの共有・園長・副園長からの伝達事項。

・研修計画

職員個別に研修計画を策定

行政主催の研修参加

保育団体主催の研修参加

外部講師・事業部による研修

園内研修

振り返り・課題

標準化会議（リーダー層によるチームの現状認識・課題の提起・発信・職員会議内容検討など）→職員会議→パート会議という会議体により、情報共有や課題解決を進めた。また昼礼の内容をノートに記載するだけでなく、タイムリーに各クラス携帯に配信することで情報がより迅速に流れて共有化することができた。引き続き、職員同士の報告連絡相談の仕組みづくりを整えた上で、必要に応じたコミュニケーションを図っていけるようにしていくようにしたい。

見学や保育所体験参加者からの悩み相談や不安には丁寧に答えることで、地域活動のリーピートや入園にも繋がった。

【施設整備状況】

施設整備状況

- ・ゴキブリ防除作業（年2回）
- ・事業者によるトイレクリーニング・エアコンクリーニング
- ・排水管清掃（高圧洗浄）・調理室グリストラップ清掃
- ・厨房設備点検
- ・園舎の健康診断
- ・建築・消防設備点検
- ・調理室機器・作業台・水栓修繕
- ・オルガン・楽器購入
- ・防災保育室マット購入

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

月例行事 0歳児健診、避難消火訓練、保育参加

4月 入園式、保護者会

5月 こどもの日、個別面談、田植え（4・5歳児）

6月 個別面談、水遊び開始

7月 七夕、1日特別保育（5歳児）、水遊び

8月 水遊び

9月 引き渡し訓練、保護者会、親子稲刈り遠足（4・5歳児）、祖父母ふれあいデー（幼児）

10月 親子遠足（3歳児）、

11月 個別面談（0～4歳児）乳児ふれあいデー

12月 幼児発表会、クリスマス、もちつき（鏡餅作り）

1月 個別面談（5歳児）、保護者会

2月 節分

3月 ひな祭り、卒園式、お別れ遠足（5歳児）、お別れ会

【苦情内容及び結果の公表】

件数

1 件

1 月入所の 3 歳児保護者より「送迎時に担任以外の職員が対応することが多く、不安。子どもの様子が丁寧に伝えられていない。

お迎え時に園内がザワザワしていて声が反響していて落ち着かないという印象。

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

第三者評価アンケートより、0 歳児室に迎えに行く際に 1 歳児室を通るが、子どもや保育者・保護者がたくさんいて衝突等危ないと感じるとの意見→対応：柵で仕切りをして、安全に通れるスペースを確保した。

対応及び解決方法

園長と話がしたいという要望があり、対応する。1 月初めは担任の休みもあり、送迎時にしっかりとお話できなかったことを詫言った。担任が話をする時間を確保できるように体制を整え、他の職員でも引継ぎを受けて話ができるよう情報共有することをお伝えした。ザワザワ感については、保育室がオープンスペースという構造もあるが、子どもの声とともに保育者の声も大きくなりがちなので、保育者がトーンに留意して落ち着いた環境をつくるよう努めることをお伝えした。

お子さんがなかなか園に慣れなかったこともあり保護者の不安が続いたため、何度か話をする機会を作り、すれ違ったときには園長や他の職員もなるべく声をかけるようにした。

【その他】

① 安全管理

- ・安全計画策定と実行
- ・防災訓練

毎月 1 回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施

水害（津波・高潮）を想定したマンション上層階への避難訓練

引き渡し訓練（9 月）

交通安全指導（1 月：湾岸警察交通課による指導）

- ・園児：毎月 乳児健診・身体測定（0 歳児 2 回） 年 2 回 全園児健診・歯科検診
- ・職員：毎月 細菌検査の実施 年 1 回 定期健康診断・インフルエンザ予防接種
- ・感染症の発症については掲示にて保護者に周知
- ・感染症予防

来訪者・保護者・園児は玄関前および玄関内柵上に設置してあるアルコールで手指消毒を行う。

園児：0 歳児は朝、自宅と登園時の 2 回検温。1～5 歳児は朝、自宅にて検温したものを連絡帳で確認。

職員：出勤時に検温・体調確認

手洗いの励行

衛生管理

- ・日常清掃の徹底
- ・次亜塩素酸を使用するのトイレ清掃
- ・感染症発生時の保育室のアルコール消毒
- ・日常的な玩具消毒
- ・保育室・調理室・事務所の害虫駆除
- ・オゾン生成器による空気清浄
- ・施設設備点検（自主点検チェック・施設内外点検）（月 1 回）

- ・メッセージグレード・ヒヤリハットから再発防止と危険の未然防止を図る（安全管理係による取り組み推進）
- ・SIDSの防止（睡眠チェックの徹底）
- ・園内研修（ガイドライン・マニュアル確認と読み合わせ）
- ・救急救命受講（正規職員・パート職員）
- ・不審者訓練実施（12月：湾岸警察防犯課による指導）
- ・事業継続計画（BCP）の策定と見直し

② 地域交流

- ・保育所体験（保育園で遊ぼう・季節の行事をご一緒に）
- ・小中高生の育児体験
- ・育児講座（離乳食講習会）
- ・マイ保育園事業実施・登録家庭への支援
- ・園見学の実施

③ 実習生・ボランティア

実習：東京家政大学 栄養学部栄養学科 8名 有明教育芸術大学子ども教育学科 1名
 ボランティア：目白大学人間学部子ども学科 1名 有明芸術短期大学 2名

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

総合満足度は「大変満足 66%」「満足 29.8%」と計 95.8%が肯定的でした。外部講師による活動や自由遊び、生活習慣の自立支援など、多くの項目で90%前後が「はい」と回答し、保育内容への高い評価が示されました。コメントでは「先生たちが本当によく子どもを観察してくれている」「連絡帳が丁寧で安心」といった声が多く寄せられています。一方で、園内の匂い・清掃、戸外遊びの機会、送迎動線、安全対策、人手不足による対応のばらつきなど改善要望も見られました。また、相談窓口の周知やコミュニケーションの質向上を求める意見もありました。全体として高い満足度を維持しつつ、環境整備と職員体制の強化が今後の課題と考えられます。

ひまわりキッズガーデン豊洲 2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区豊洲四丁目11番20-138号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 90名 | 86名 | 85名 | ▲1名 | +5名 | ▲2名 |
| 0歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 13名 | 13名 | 13名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 18名 | 17名 | 18名 | +1名 | 0名 | 0名 |
| 3歳児 | 18名 | 18名 | 18名 | 0名 | 0名 | +1名 |
| 4歳児 | 18名 | 17名 | 16名 | ▲1名 | +2名 | +1名 |
| 5歳児 | 17名 | 15名 | 14名 | ▲1名 | +3名 | ▲4名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 24名 | 22名 | 3名 | 0名 | (0名) |
| 保育士 | 17名 | 18名 | 1名 | 0名 | (0名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 5名 | 2名 | 2名 | 0名 | (0名) |
| 用務 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・保育(歩育)の共通理解の浸透
- ・園の魅力の発信(地域活動の継続と開拓)

振り返り・課題

- ・主任がエリアの主任と話し合いながら、計画を作り、それを現場に下ろすという事を通年行なってきた。保育者の保育の幅、歩育活動への意欲は職員・保護者・子どもと広がってきているものの、計画→実践→振り返り→次の活動という繋がりを持って考えられるようになる事が課題。
- ・地域との関わりにおいて、行事のタイミングでの関わりに偏り、継続的な交流には至りにくい。日常的に関わるにはどうしていくかを職員がそこも視野に入れられるような活動を考えていく。

② 人材育成

目標

- ・発達を理解した上での働きかけ
- ・歩育を通しての地域活動の充実

振り返り・課題

- ・観察の視点が属人的で、記録内容にもバラつきが見られ、子どもの興味の反映が薄れることがある。具体的な内容や根拠を持って保育を考えられるような働きかけが必要。
- ・歩育の実践はしているが、地域への発信力はまだ弱い。職員一人ひとりが歩育を語れるよう、日々のやり取りや会議内での話し合いなどを積み重ねていきたい。

③ 運営管理

目標

- ・園運営に対して参画意識を向上する
- ・役割を持って仕事に取り組む意欲を持つ

振り返り・課題

- ・園の行事等に職員全員が意識して参画できるような仕組みを作ってきた。全員とまではいかないが、クラスの隔たりを越えて、それぞれが役割を持って仕事を行なえるようになってきた。伝える際の伝え方や理解度を考慮した上で、職員が行動できるように引き続き仕組みを作り、そのサイクルを回して必要がある。

【施設整備状況】

施設整備状況

- ・0歳児室床貼り替え

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

- 4月：入園式・保護者会
- 5月：こどもの日、田植え遠足（4・5歳児）、個別面談
- 6月：個別面談
- 7月：七夕、1日特別保育（5歳児）
- 8月：プール・水遊び
- 9月：引き渡し避難訓練、稲刈り遠足（4・5歳親子）、乳児ふれあいデー
- 10月：親子遠足、豊洲ハロウィンフェスティバル(54歳児)
- 11月：運動会、乳児発表会・保護者会
- 12月：幼児発表会、保護者会、クリスマス会・もちつき
- 1月：個別面談（5歳児）
- 2月：節分、遠足（5歳児）、個別面談（0～4歳児）
- 3月：ひなまつり、お別れ会、卒園式

【苦情内容及び結果の公表】

件数

なし

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

なし

【その他】

① 安全管理

- ・安全計画策定と実行

防災訓練

毎月1回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施

津波対策としてマンション内上層階への避難訓練、引渡し避難訓練を年1回実施

健康管理

0歳児は毎月1回、1歳児以上は年に2回、職員は年1回健康診断を実施。

職員は、毎朝の検温など職員同士で体調を確認しあい健康管理を徹底して行う。

SIDSの防止対策（睡眠チェックの徹底）

インフルエンザ予防接種も実施。

衛生管理

感染症予防のために利用者には、アルコール消毒を活用して手指消毒を行う。

玩具は定期的に、除菌作業を機械にて実施

安全管理

施設設備点検（月1回）

事業継続計画（BCP）の策定と見直し

保育環境の整備

救急救命受講（正規職員・パート職員）

建物検査（年1回）

② 地域交流

- ・近隣保育園との交流活動
- ・運河ルネサンス協議会に参加（7月の水彩まつりに参加）
- ・豊洲商友会主催、豊洲ハロウィンフェスティバルにマーチングにて参加
- ・園庭開放、見学会などの地域親子向けの行事を計画、実施
- ・保幼小中連携教育の研修や交流に参加
- ・園見学実施

③ 実習生・ボランティア

なし

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

回収率は63%となり、保護者の総合評価は、大変満足60.9%・満足37.0%となり、97.9%の方が満足と評価となりました。

園の強みである「歩育」を中心とした保育実践により、子どもの体力向上や食習慣の改善、集中力・社会性・探究心の育成など、多面的な成長が促されている点が高く評価された。また、ペアクラス制やミッションボードの活用により職員間の協働体制が強化され、保育の質向上と主体的な行動を促す仕組みが整備されている。さらに、倫理観の浸透やリスク管理、地域連携など組織運営も概ね適切に行われている。一方で、事業計画の現場浸透やナレッジの共有・言語化、再現性の高いマネジメント体制の構築が課題として示されており、持続可能な組織運営と職員の主体的成長を支える環境づくりが今後の重要な取組として期待されている。

ひまわりキッズガーデン志村 2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区小豆沢一丁目12番6号 複合施設「ここから」1階

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 54名 | 54名 | 54名 | 0名 | 0名 | +1名 |
| 0歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 8名 | 8名 | 8名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 10名 | 10名 | 10名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 3歳児 | 10名 | 10名 | 10名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 4歳児 | 10名 | 10名 | 10名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 5歳児 | 10名 | 10名 | 10名 | 0名 | 0名 | +1名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 21名 | 21名 | 1名 | 1名 | (0名) |
| 保育士 | 13名 | 13名 | 1名 | 1名 | (0名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 5名 | 5名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 用務 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 事務 | 2名 | 2名 | 0名 | 0名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・保育活動の質の向上と一貫性を図る。
- ・四世代共生を通じて子どもたちの成長を促進し、地域との交流を深める。

振り返り・課題

・標準化会議や昼礼の定着により、計画と実践の連動が進みました。副主任による伴走支援も強化され、月案・保育計画・週日案のつながりが分かりやすくなり、保育活動の質が全体的に底上げされました。また、AI 照合による保育計画実施率も改善傾向が見られ、組織として共通の指標で保育の質を確認できるようになりました。

一方で、計画と振り返りを次月へつなげる力には職員間で差が見られました。昼礼での要点共有には運用のばらつきがあり、情報共有率は目標の 80%に達していませんでした。若手・中堅職員における保育価値観の統一にも課題が見られ、理念や行動基準を実践へ落とし込む支援が引き続き必要であると感じました。

・高齢者施設との交流が全クラスで週 1 回以上実施され、子どもの社会性や共感性の育ちが多く見られました。交流活動の記録や写真掲示により、保護者にも子どもの育ちを伝えられるようになり、園の取り組みへの理解が深まりました。また、異年齢交流や卒園児との関わりも進み、園ならではの「多世代で育ち合う」環境が広がりました。

一方、複合施設（GH・YH）との連携は、職員ごとの関わり方に差が見られ、現状は一部に属人的な運用が残っている状況です。交流準備や声掛けの質にもばらつきがあり、「0～100 歳をつなぐ役割」についての認識は、今後さらに全体での共有と浸透が必要であると感じました。地域資源との連携も広がりつつあるものの、計画的なつながりには至っておらず、地域認知率の測定や発信の強化が今後の課題として残りました。

・前年度は、保育の質の基盤づくりと四世代共生の実践において大きく前進しました。一方で、職員全体での価値観の統一や、複合施設・地域との協働体制の強化など、仕組みとしての定着が必要な課題も明確になりました。令和 8 年度は、これらの土台をさらに深め、質の安定と地域への発信力向上に取り組んでいきたいと考えています。

② 人材育成

目標

- ・職員の能力向上と一体感の醸成。
- ・職員の協力体制を強化し、働きやすい環境を整える。

振り返り・課題

・主任・副主任の役割整理が進み、園内の指導体制が明確になりました。標準化会議や昼礼を通して保育観や価値観の共有が深まり、一体感が高まりました。また、副主任の伴走により若手の育成も進み、保育計画と実践のつながりが改善しました。ES アンケートでも、上司の支援や成長実感が高い評価となりました。

一方で、理念を理解して行動につなげる力には職員間で差が見られました。四世代共生の役割認識や保育価値観の浸透にもばらつきがあり、振り返りを次の計画につなげる力にも一部で弱さが見られました。育成の均質化が次年度の課題となりました。

・昼礼や会議の定着により、クラス間の情報共有がスムーズになり、協力体制が強まりました。交流活動も全クラスで習慣化し、記録と発信が進んだことで保護者との連携も円滑に進みました。タスク管理も改善し、計画的に業務を進める職員が増えました。

一方で、GH・YH との連携は実践の進め方に差が見られ、情報共有率も目標に届かない状況でした。共有された内容が十分に行動へ結びついていないケースも見られ、連携の質を高めるための工夫が必要であると感じました。

③ 運営管理

目標

- ・運営管理の効率化と標準化。また、地域コミュニティの拡大を目指す。

振り返り・課題

・標準化会議・昼礼・乳幼児会議の定着により、園内の運営サイクルが整い、情報共有や保育計画の流れが可視化されました。特に、月案→保育計画→週日案の連動を全員で確認する仕組みが構築されたことで、運営が特定の個人に依存しにくい体制へと進み、日々の判断基準が整理されました。

また、カタグルマを用いたタスク管理も徐々に浸透し、提出物・計画・業務進行が以前より安定して進むようになりました。これらにより、運営の標準化が進み、業務の見通しやすさが改善しました。

・一方で、運営の質には職員間で差が見られました。特に、情報共有率は71%と目標に達しておらず、会議内容が実践に結びつくまでのプロセスにばらつきがありました。また、タスク管理の定着度にも個人差があり、行動計画が十分に活用されていない場面も見られました。さらに、複合施設との連携については一定の実践は進んでいるものの、共通の手順や仕組みとしての整理には至っておらず、運営全体として安定した連携体制を構築していく必要があると感じました。

【施設整備状況】

施設整備状況

- ・2階コミュニティホールロールスクリーン設置
- ・エアコンクリーニング
- ・トイレ・保育室手洗い場クリーニング
- ・顔認証ドアホンシステム
- ・壁掛け扇風機13台入替
- ・入口廊下壁面工事
- ・排水管高圧洗浄
- ・複合機入替
- ・セコムセキュリティ導入
- ・手洗い水栓交換工事
- ・水栓修繕工事

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

- 4月：入園進級お祝い会（新入園児・保護者と幼児クラス）
- 5月：こどもの日の集い・保護者会・田植え遠足・ここから祭り（高齢者施設・地域との交流）
- 6月：個別面談・じゃがいも堀り
- 7月：七夕
- 8月：一日特別保育・お店屋さんごっこ
- 9月：引き渡し避難訓練・保護者会・稲刈り遠足（5歳児）・敬老お祝い会
- 10月：運動会
- 11月：作品展・個別面談
- 12月：おゆうぎ会・クリスマス会・もちつき会
- 1月：個別面談（5歳児）
- 2月：節分集会・保護者会（0～4歳児）
- 3月：ひな祭りの会・保護者会（5歳児）・お別れ会・お別れ遠足（5歳児）・卒園式

【苦情内容及び結果の公表】

件数

2件

対応及び解決方法

① 物品受け取りに関するご意見

保護者より、担任職員宛てのお土産を受け取れなかった対応についてご意見があった。園長より改めて、園としては公平性確保の観点から、保護者からの個別の物品受け取りは控えていることを説明し、謝意とともに丁寧にお詫びを行った。保護者からは一定の理解が示され、今後の対応については法人にも共有してほしいとの要望を受け、園内および法人内で情報共有を行った。

② 服装基準に関するご意見

園児の服装について「基準が分かりにくい」「以前は注意されなかった服が注意された」とのご意見があった。園としての考え方を明確にするため、全保護者向けに服装に関する注意点を配信。その後、園長が個別に面談を行い、安全面を重視した園の方針と、明確な数値基準を設けることが難しい理由を説明した。保護者は完全な納得ではないものの、園の考え方について理解を示された。

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

- ・職員個人への物品提供に関する園のルールが分かりにくかった。
- ・園児の服装について、注意基準が分かりづらく、対応にばらつきがあると感じた。

【その他】

① 安全管理

●防災訓練

毎月1回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施。
合同避難訓練の実施 年2回（複合施設「ここから」として建物全体での実施）
9月 引渡し訓練の実施

●健康管理

園児：毎月0歳児健診、年2回全園児健診、年2回歯科検診、
毎月身体測定（0歳児2回）
職員：年1回定期健康診断・インフルエンザ予防接種、毎月細菌検査の実施、
健康管理には最善の注意を払い、感染症の発症については掲示にて保護者に連絡している。

●衛生管理

危険箇所、施設の衛生管理についての点検整備を実施。
保育室及び玩具等の消毒、感染症予防の為、必要に応じてアルコールや次亜塩素酸を使用し、施設の消毒状況を徹底する。
室内害虫駆除及びネズミ駆除（年2回）
オゾン発生器設置（新型コロナウイルス感染症対策、空気清浄効果）

●安全管理

施設設備点検（月1回）
保育環境の整備（施設内の壊れ、安全クッション、ガード）
事故防止：メッセージグレード、ヒヤリハットを活用した再発防止・ケース検討

SIDS の防止（0歳5分間隔、1～2歳10分間隔、3～5歳15分間隔で午睡時睡眠チェック）
不審者対応訓練

② 地域交流

- ・園見学対応
- ・保育園体験
- ・育児講座（ベビーマッサージ・絵本の読み聞かせ・親子体操など）
- ・ここから祭り
- ・作品展
- ・小学生の保育士体験
- ・卒園児交流

③ 実習生・ボランティア

職業体験実習（1校・2名）/保育実習（1校・1名）

ボランティア（1校・2名）

職場体験 東京都立練馬工科高等学校からインターンシップを2名受け入れる。

実習校 東京こども専門学校からの実習生の受け入れ

実習校 東京こども専門学校からのボランティアの受け入れ

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、保護者アンケートの回答率は100%、「大変満足」「満足」との回答が100%であった。

一人ひとりの子どもに寄り添い、丁寧に見守りながら、多様な体験や行事を通して成長を促している点について評価する声が多く寄せられた。

また、職員の穏やかで柔軟な対応や、子どもとの信頼関係、保護者との程よい距離感についても高く評価されており、子どもたちが安心して楽しく通園できる環境が整っていると感じている様子がうかがえた。

一方で、園庭がないことから、外遊びや運動の機会をより充実させる工夫を望む意見も寄せられた。

ひまわりキッズガーデン有明 2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区有明一丁目4番11号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくりまします。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 110名 | 104名 | 102名 | ▲2名 | +8名 | 0名 |
| 0歳児 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 20名 | 20名 | 20名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 21名 | 19名 | 21名 | +2名 | 0名 | ▲3名 |
| 3歳児 | 23名 | 22名 | 22名 | 0名 | +1名 | +2名 |
| 4歳児 | 24名 | 22名 | 18名 | ▲4名 | +6名 | ▲3名 |
| 5歳児 | 22名 | 21名 | 21名 | 0名 | +1名 | +4名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 23名 | 24名 | 1名 | 1名 | (0名) |
| 保育士 | 16名 | 17名 | 1名 | 1名 | (0名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 用務 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

SNS を活用した情報発信
一時保育利用者への発信

振り返り・課題

地域への情報発信に関しては、SNS を活用した展開を始めてきているが、園児数獲得という上ではまだ発信の仕組みが定着していない。今後日常的な発信を強化していく中で、運用の仕方の仕組み化が必要になってきている。

地域活動に関しては、1 歳児クラスを中心に園庭開放や散歩体験、給食体験などを実施し取り組んでいることで、リピーターになって参加してくれる方も出てきている。一時保育利用者も定着しており、保育園への入園にもつながっている。

② 人材育成

目標

保育能力の向上

振り返り・課題

湾岸 4 園の主任を中心に、保育のレシピを活用して職員が展開する保育内容を標準化できるように取り組んできているが、実際に日々の保育での取り入れ方は職員それぞれによって違いがあると考えている。今後は、展開する保育の中での取り入れ方もある程度、理解を同じようにしていないと職員のスキルによって子どもの育ちが変わってきてしまうということが起きると認識している。職員のスキル向上のために、ICT を活用しながら職員が知識を習得できる環境をつくっていく必要があると考えている。

③ 運営管理

目標

ビジョンの浸透
園運営への参画意識の向上

振り返り・課題

職員の毎月の取り組みを管理していく中で、それぞれにフィードバックをしていながら職員の成長実感が現れるように取り組んできたが、自身の成長を目に見えて感じるということはなかなか難しく職員自身が成長を感じるというところに結び付けるには、難しさがあった。成果の指標を数値化していながら職員が自身の成長を感じられる仕組みが必要になってきている。

【施設整備状況】

施設整備状況

- 11 月 エアコン入れ替え（3 か年計画）
- 2 月 一時保育室用途変更のためパーティション工事

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

- 4月： 入園式、保護者会
 - 5月： こどもの日、乳児個別面談、4.5歳児田植え遠足、乳児親子ふれあいあデー
 - 6月： 歯科検診、幼児個別面談
 - 7月： 七夕、5歳児特別保育、水遊び開始
 - 8月： 夏祭り
 - 9月： 引き渡し避難訓練、5歳親子稲刈り
 - 10月： 3歳児親子遠足
 - 11月： 湾岸スポーツフェスティバル、全園児健康診断、全園児歯科検診
 - 12月： 乳児保護者会・発表会、クリスマス、もちつき、5歳児個別面談
 - 1月： 幼児保護者会・発表会
 - 2月： 節分、1～4歳児個別面談、5歳児お別れ遠足
 - 3月： ひなまつり、お別れ会、卒園式、3・4歳ピクニック遠足
- ※11月～3月 保育参加期間
※毎月第4金曜日 誕生会

【苦情内容及び結果の公表】

件数

2件

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

- ① 保育園内マンションにお住まいの方より、近隣のスーパーで子どもたちが降園後、走り回っている。このマンションに来て11年も我慢しているため、保護者にきちんと注意喚起、指導をして欲しいとご意見をいただきました。
- ② 職員が子ども達に発した言葉でこどもが傷付いたと保護者からご意見をいただきました

対応及び解決方法

- ① 地域の方には、謝罪し姉妹園と共に注意喚起を行うことを説明しご納得いただきました。全保護者に即日コドモンで注意喚起を発信し、園内にも注意喚起分を掲示、保護者会で保護者にもスーパーの中での子どもたちの姿に注意を払うようにお伝えしました。また、職員による夕方のスーパーの巡回も実施しました。
- ② 保護者から詳細を聞き、担任と振り返りを実施しました。こどもにも直接、昨日なぜその話を担任がしたのか再度職員から伝え、みんなにきちんと伝えられなかったことを謝罪しました。その経緯を再度保護者に説明しご納得いただきました。

【その他】

① 安全管理

- 7月 消防設備点検
 - 9月 建築設備点検、備蓄品確認
 - 12月 ソーラーパネル購入
 - 12月 施設内施設外建物診断実施
 - 3月 グリストラップ清掃
- ※毎月1回施設外、施設内設備点検

② 地域交流

- 4月 有明企業協議会 交通安全活動
- 6月 有明ガーデンシアター合同避難訓練 4.5歳児参加
- 10月 有明ガーデン点灯式 5歳児参加

- 1 2月 有明マンション連合会「有明サンタ」 5歳児有志
- 2月 有明ガーデンシアター合同避難訓練 4.5歳児参加
- 2月 有明西学園交流会

③ 実習生・ボランティア

ボランティア受け入れ 麴町学園女子中学校 2名

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

令和7年度の第三者評価では、利用者調査において「大変満足・満足」が97.1%となり、保護者から高い評価を得ました。日々の保育活動や食育、戸外活動、保護者との信頼関係について肯定的な意見が多く寄せられました。また、職員会議や標準化会議を通じて理念・方針の共有、役割の明確化、実行計画の振り返りを継続し、組織的な保育の質向上に取り組みました。今後も職員一人ひとりが主体的に考え、子どもの姿を起点とした保育実践を深めていきます。

ひまわりキッズガーデン有明の森 2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区有明一丁目4番20号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 100名 | 93名 | 88名 | ▲5名 | +12名 | ▲17名 |
| 0歳児 | 6名 | 6名 | 6名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 15名 | 13名 | 15名 | +2名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 20名 | 18名 | 16名 | ▲2名 | +4名 | ▲5名 |
| 3歳児 | 19名 | 18名 | 15名 | ▲3名 | +4名 | ▲2名 |
| 4歳児 | 16名 | 15名 | 15名 | 0名 | +1名 | ▲7名 |
| 5歳児 | 23名 | 22名 | 21名 | ▲1名 | +2名 | ▲3名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 21名 | 27名 | 11名 | 14名 | (3名) |
| 保育士 | 13名 | 16名 | 6名 | 7名 | (3名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 5名 | 7名 | 3名 | 4名 | (0名) |
| 用務 | 1名 | 1名 | 2名 | 2名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 2名 | 0名 | 1名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

時代とともに利用者のニーズも生活スタイルも変化している。現在の子どもたちの心身の成長状況や、生活環境を考慮し、保育環境や保育内容（保育者の関わり）は、現状で良いのかどうかを、確認、改善、実行する。

振り返り・課題

【生活習慣の基盤づくりの見直し】

- ・ 水分補給の計画的な取り組み
- ・ 薄着保育・体温調節・感染症予防
- ・ 就寝時間の遅れへの働きかけ
- ・ 運動面の見直し（乳児クラスのバギー利用減）

家庭での生活リズム（特に水分補給・就寝時間）に課題がある子どもが多く、園として基本的な生活習慣を重点的に支援した一年であった。水分補給は結果として夏場の熱中症対策だけでなく、冬季の乾燥対策にもつながり、通年で健康な状態を維持できた。年間を通して室温・湿度・換気・手洗いの徹底により、大きな感染症の流行が発生しなかった。職員も「体温調節できる体づくり」の重要性を再確認できた。また就寝時間が遅い子どもほど、午前の活動に入りづらい傾向が明確だった。乳児の運動面では歩ける子はできるだけ歩く設定に切り替え、1歳児クラスでは立ち乗りバギーはほぼ1年活用せず、園内外でこどもが安全に歩く機会増やしたことで事は1歳・0歳児でも歩行が進んだ。体感が整うとその他の生活習慣の獲得もはやかった。

【課題】

- ・ 家庭との連携において、睡眠・食事・生活リズムの改善が一層必要。
園からの「伝え方」「継続した働きかけ」と同時に職員間で水分補給や体づくりの意図は共有が必須
- ・ 乳児の歩行支援や環境設定について、保育士の経験値に左右されない「共通理解のマニュアル化」が課題

② 人材育成

目標

保育力向上

振り返り・課題

- ・ 保育の「意味づけ」の再確認
- ・ 合同会議（年齢別／乳児・幼児）での具体的な学び
- ・ ICT・AI活用
- ・ 園外発信の不足

年間を通しての有明との合同会議は、職員は実例を通して理解を深め、学ぶ意欲の高い職員は概念と実践が結びつき、クラス運営に自信を持つことができた。新入職員の質問をきっかけに、活動の目的や環境設定の理由を再共有することができた。保育業界全体としてもかなりICT化は進んできていると思うが、法人全体でAIを保育に活用してきた。業務の軽減化にむけてさらに活用していきたい。今年度できなかった日常の保育や園の活動を地域や保護者に伝える広報活動にもAIを活用していきたい。

【課題】

- ・ 職員の保育観にばらつきがあり、従来のやり方に固執した場合に改善が進まない傾向が見られるため、園としての統一した保育観の明文化が必要。
- ・ 地域・保護者への広報を強化し、「地域の居場所としての園づくり」を具体策に落とし込む。

③ 運営管理

目標

職員（非常勤職員含む）の運営への参画・ビジョンの浸透

振り返り・課題

- ・ 職員体制の課題と改善
- ・ 利用定員の見直し
- ・ 施設の老朽化と修繕対応

年度はじめに保育士3名が退職。看護師を保育士配置に置くなど、補助金の減額対象になる月が発生し、隙間バイトサービス等も活用しながら年度初めは運営を維持いたしました。後半に保育士5名が入職し改善されましたが、人員不足で厳しい状況下の副産物として、少数精鋭で協力できる体制が整いました。利用定員を活用し認可定員数113名を利用定員99名に変更したことは、当初の定員減の目標より早く減員できましたが、年間を通して転居が多かった為、4月からはさらに利用定員を減員して運営を行います。施設面では、給食室や園庭の水回りトラブルが複数発生。対応事業者の把握が不十分だった為、稟議書を遡って業者を探す場面も多く、施設として補修を計画的に行う為、設備の補修の際に、記録して今後に備える必要があると認識する。LED化も未着手で、次年度早々に計画したい。

【課題】

- ・ 新年度の保育士確保を進めるための、採用・広報活動に積極的に参加する。
- ・ 修繕の履歴・業者情報・契約状況をまとめた「施設管理台帳」の整備が急務。
- ・ 照明設備のLED変更

【施設整備状況】

施設整備状況

施設の老朽化に伴い、特に水回りを中心とした突発的な修繕が多く発生した一年となりました。

キッチンのグリストラップから発生する水蒸気の影響により、長年床下に水が溜まっていた件については、マンション駐車場への水漏れが発生したことで判明しました。現在は、調査および応急処理を実施し、ひとまず修復された状態となっています。

今後は、厨房内設備も含めた中長期的な修繕計画の策定が必要であると考えています。

空調設備については、園舎内を二期に分けて更新を進めており、一期工事（乳児クラス・事務所）は完了しました。

二期工事にあたる幼児クラスおよび厨房については、次年度中の取り換え工事を予定しています。

また、LED照明工事については現在未着手の状態となっているため、次年度中の工事完了を目標に計画的に進めていきます。

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

- 4月 入園式・保護者会・引き渡し訓練
- 5月 こどもの日、田植え遠足（4・5歳児）、個別面談・歯科指導
- 6月 個別面談・乳児親子ふれあいデー・特別保育（5歳児）・歯科検診
- 7月 セタ・プール・水遊び
- 8月 プール・水遊び・乳児親子ふれあいデー
- 9月 稲刈り遠足（4・5歳親子）
- 10月 親子芋ほり遠足、幼児運動会、ありがとうの会
- 11月 乳児発表会・保護者会・有明ガーデン点灯式（5歳児）
- 12月 幼児発表会、保護者会、クリスマス会・もちつき、有明サントイイベント（5歳児）
- 1月 お正月遊び・個別面談（5歳児）
- 2月 節分、個別面談（0～4歳児）・小学校見学（5歳児）
- 3月 ひなまつり・お別れ会・お別れ遠足（5歳）・卒園式

【苦情内容及び結果の公表】

件数

3件

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

- ① 職員の身だしなみについて（保護者の方より）
- ② 園児降園後、近隣スーパーでのマナーについて（地域の方より）
- ③ 職員の対応について（保護者の方より）

対応及び解決方法

- ① 職員の身だしなみについて
「先のとがった赤い爪の保育者がおり、我が子を傷つけないか不安。職業倫理が感じられない」とのご意見を受けました。
ジェルネイル自体は職員の判断に任せているものの、改めて・華美でないこと・ストーンや装飾をつけないこと・爪は短く、先は丸く整えることについて、全職員へ周知・再確認を行い、遵守の徹底を図りました。
- ② 降園後の近隣スーパーでのマナーについて
姉妹園（有明）と情報を共有し、両園の保護者に対して、降園後に近隣スーパーを利用する際のマナー協力をお願いを配信しました。また、スーパー側とも連携し、危険行為が見られた場合はその場で注意喚起を行っていただくとともに、園としても職員による定期的な巡回を実施することとしました。
- ③ 職員対応について
保護者会において、担任より「〇月〇日からは全員パンツで登園」と一律の案内があり、その指示どおり登園したところ、後日個別に否定されたのご意見がありました。担任は目標として期日を示したものでしたが、個別対応が必要なご家庭へのフォロー連絡を怠ったことが原因であったため、園として謝罪を行いました。
今後は、全体説明と個別対応の区別を明確にし、保護者への伝達方法の統一と確認を徹底していきます。

【その他】

① 安全管理

【防災訓練】

毎月1回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施

津波対策としてマンション内上層階への避難訓練、引渡し避難訓練を年1回実施

【健康管理】

0歳児は毎月1回、1歳児以上は年に2回、職員は年1回健康診断を実施した。
職員は、毎朝の検温など職員同士で体調を確認しあい健康管理を徹底して行う。
インフルエンザ予防接種も実施。

【衛生管理】

感染症予防のために利用者には、アルコール消毒を活用して手指消毒を行う。
玩具は定期的に、除菌作業を機械にて実施

【安全管理】

施設設備点検（月1回）
日常の施設点検（毎日）
保育環境の整備

② 地域交流

- ・申し込み事業者に園舎・園庭開放
（体操指導事業者主催の体操教室に毎週土曜日、子育て相談、プログラミング等）
- ・有明ガーデン主催のイルミネーション点灯式に5歳児有志がマーチングで参加
- ・有明テニスの森レディースカップイベントに、4歳5歳の有志親子がテニス体験に参加
- ・有明マンション連合会主催の有明サタイベントに、5歳児有志がマーチングで参加
- ・園庭開放、見学会などの地域親子向けの行事を計画、実施
- ・保幼小中連携教育の研修や交流に参加
- ・「ありがとうの会」で、近隣施設（交番、消防署等）に日頃の感謝を伝えに行った。
- ・姉妹園との交流（幼児クラス）

③ 実習生・ボランティア

【実習】

- ・東京家政短期大学 12名
- ・有明芸術短期大学 2名

【ボランティア】

- ・有明西学園 学生

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

利用者調査では、保護者の回収率は57%総合満足度が約91%でした。特に、外遊びや季節の製作、食育などの多様な体験を通じて子供の成長を実感できる点が高く評価されています。また、明るい職員による積極的な声かけや、顔認証システム等の安全対策も保護者の安心感に繋がっています。一方で、連絡帳アプリの配信内容や写真の有無にムラがある点、職員による接遇や情報共有のばらつきが課題として挙げられました。質の高い保育を維持しつつ、家庭との連携や接遇面での更なる改善が期待されています。さらなる保育の質の向上と安定した運営を目指してまいります

ひまわりキッズガーデン城山 2025 年度事業報告

社会福祉法人ひまわり福社会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区志村一丁目30番15号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 当年度振り返り・課題

(1) 利用者数

| | 利用定員 | 利用者数 (期首) | 利用者数 (期末) | 利用者数 増減 (期首～期末) | 空き定員 | 対前年比 (利用者数 (期末)) |
|-----|------|--------------|--------------|-----------------------|------|------------------------|
| 全体 | 60名 | 60名 | 60名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 1歳児 | 12名 | 12名 | 12名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 2歳児 | 12名 | 12名 | 12名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 3歳児 | 12名 | 12名 | 12名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 4歳児 | 12名 | 12名 | 12名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 5歳児 | 12名 | 12名 | 12名 | 0名 | 0名 | 0名 |

(2) 職員数

| | 人数 (期首) | 人数 (期末) | 離職数 | 新規採用数 | (内新卒採用数) |
|-------|------------|------------|-----|-------|----------|
| 全体 | 22名 | 25名 | 3名 | 3名 | (0名) |
| 保育士 | 16名 | 17名 | 3名 | 1名 | (0名) |
| 幼稚園教諭 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 看護師 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 保育補助 | 4名 | 5名 | 0名 | 2名 | (0名) |
| 用務 | 0名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |
| 事務 | 1名 | 1名 | 0名 | 0名 | (0名) |

(3) 当年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・子どもが経験すべき活動の充実（運動・絵画・制作・リズム・音楽・多言語等）
- ・小学生、中学生、高校生の居場所づくり

振り返り・課題

乳幼児期には、五感を通じた体験から得られる「感じたことがある」という実感が、好奇心や探究心、さらには困難を乗り越える力である非認知能力の育ちにつながると言われている。そのため、運動・絵画・制作・リズム・音楽・多言語など幅広い活動内容を用意し、大人が正解やゴールを提示しすぎず、子ども自身が興味のままに試行錯誤できるように、教え込まない保育活動を心がけてきた

◆ 成果

毎月、保護者に向けて運動・絵画・リズム・音楽・多言語などの活動内容を発信したことで、活動が特定の領域に偏らず、多様な体験を満遍なく取り入れることができた。これにより、子どもが自分の興味に基づいて活動に関わる機会が増え、より幅広い経験の蓄積につながった。

◆ 課題

活動領域は広がった一方で、保育者の経験値や価値観の違いにより、「子ども主体」の捉え方にばらつきが見られる。今後は、子どもが自分で選択する、自ら試行錯誤する、夢中になって没頭するといった姿を「主体性」として共通認識にし、保育者間での基準を揃えた上で保育活動を展開していくことが次の課題である。

小学生、中学生、高校生の居場所づくり

◆ 背景・ねらい

当園では、学校の三季休業に合わせて育児体験を実施し、小中高生が安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいる。卒園児をはじめ、地域の小学生や高校生が参加する機会が増え、園児はお兄さん・お姉さんとの関わりを楽しんでいる。また、小中高生も乳幼児との触れ合いを通じて笑顔が増え、のびのびと過ごす姿が見られている。

◆ 成果

育児体験は三季休業にとどまらず、地域の不登校児の居場所としての機能も果たしつつある。学校に気持ちが向かない日に保育園を訪れ、乳幼児と関わることで安心して過ごす学生が増えている。幼児との関わりが自己肯定感の向上や情緒の安定につながっており、地域の子ども支援として効果が見られる取り組みとなっている。

◆ 課題

現状の取り組みは安定しているものの、当園が不登校児の居場所を提供していることが十分に周知されていない。今後は、取り組みを継続しながら情報発信を強化し、必要としている子どもや家庭に届くよう利用者拡大につなげていくことが課題である。

② 人材育成

目標

中堅層（経験5年以上）の育成 / 「人を育てる」パートナー制度の導入

振り返り・課題

◆ 背景・ねらい

保育理念・保育方針に基づいた実践を行うこと、そして利用者の安心・安全を確保するために、マニュアルや手引き書に沿った安全管理の徹底を重点項目として掲げ、中堅層（経験5年以上）の育成を進めてきた。その中で、「人を育てる」ことを中堅層の役割として位置づけ、パートナー制度の導入を行い、後輩育成に対する意識向上を図っている。

◆ 成果

中堅層が「後輩を育てる立場である」という自覚がこれまで以上に高まり、OJTの必要性や進め方について語られる場面が増えた。後輩との関わり方を振り返る習慣が定着しつつあり、育成に対する意識の向上が確認できた。また、中堅層同士で育成の悩みを共有する姿が見られるなど、組織的に育成を捉える動きが広がっている。

◆ 課題

中堅層が自信を持って後輩育成に取り組めるようになるためには、組織として心理的安全性を高めることが不可欠である。現場から率直な意見を引き出し、それを理念に結びつけていく対話やサポートの体制がまだ十分ではない。今後は、安心して意見を表明できる環境を整え、中堅層がより主体的に育成に関われる基盤づくりが課題である。

③ 運営管理

目標

エリア内の業務標準化 / 園の特色を打ち出す広報宣伝

振り返り・課題

◆ 背景・ねらい

城山・志村・大原の3園の正規職員が集まり、合同職員会議を実施しながら、エリア内の業務標準化を進めてきた。特に、月案に基づく保育実践の標準化、クラス運営に関わる役割の共通化を重点項目とした。3園それぞれの現状を把握した上で、リーダー・サブ・サブサブの役割に応じた行動の統一を図り、園間での保育の質に差が生まれぬよう取り組んできた。

◆ 成果

リーダー・サブ・サブサブの役割を「書面で理解する」に留めず、日々のクラス運営の中で実際の行動と結びつけながら認識を揃えたことで、役割と行動の結びつきが明確になった。これにより誰がどの立場になっても共通の判断基準で動ける場面が増え、園間のばらつきが減少しつつある。また、合同職員会議を通して、園をまたいだ相互理解も深まった。

◆ 課題

役割と行動の結びつきは進んできているものの、まだ習慣化には至っていない。役割に基づく行動を確実に定着させるためには、今年度の取り組みを2026年度も継続し、繰り返し実践・振り返りを行うことが必要である。特に、日々のクラス運営の中で自然と役割行動が発揮される状態を目指し、継続的な指導とフォロー体制の強化が求められる。

【施設設備状況】

- ・排水溝高圧洗浄・グリストラップ洗浄
- ・2階保育室床上張り工事
- ・顔認証システム導入

【主なできごと】

主なできごと（月例：誕生日会・避難訓練・保育参加）

- 4月：入園進級お祝い会・保護者会（1・5歳児）
- 5月：保護者会（2～4歳児）
- 6月：個別面談（1～4歳児）・歯科検診・全園児健診
- 7月：七夕・一日特別保育（5歳児）・個別面談（5歳児）
- 8月：水遊び
- 9月：引き渡し訓練・納涼会
- 10月：幼児3園合同運動会
- 11月：個別面談（1～4歳児）・乳児運動会
- 12月：クリスマス会・餅つき・個別面談（5歳児）・全園児健診
- 1月：お遊戯会

2月：節分・保護者会（3～4歳児）・新入園児入園説明会・歯科検診
3月：保護者会（1～2歳児）・お別れ遠足・お別れ会・卒園式・新入園児健診

【苦情内容及び結果の公表】

件数

1件

主な苦情内容（行事アンケート・連絡帳から）

夕方の幼児合同保育において、職員配置が不足しているのではないかとのご心配をいただきました。また、子どもたちが落ち着かない様子が見受けられたことから、保育者が子ども全体の動きを十分に把握できているのか、不安に感じられたとのご意見も頂戴しております。

対応及び解決方法

保護者の方にはお詫びを伝えました。

その上で、夕方の幼児合同保育の体制について、17:00までは保育士2名と補助1名、17:00以降は保育士2名体制で保育を行っていること、また17:00以降も継続して保育士2名で安全に配慮しながら保育にあたっていることをご説明いたしました。一方で、保育士のうち1名が清掃や環境整備等の業務を行う場面もあるため、その際に保護者の方に人手不足のように感じられてしまった可能性についても共有いたしました。

今後はそのような印象を与えることのないよう、保育者同士で十分にコミュニケーションを図りながら役割分担を見直し、体制の改善に努めることを伝え対応しました

【その他】

① 安全管理

●防災訓練

毎月 1回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施

7月 不審者訓練を実施

9月 引渡し訓練を実施

●健康管理

園児：年2回／全園児健診・年2回／歯科検診・毎月／身体測定

日々の検温（毎日2回：午睡前、午睡明け）を行い、園児の体調把握を行う

予防接種の呼びかけを行い、事前に感染症拡大を防止する。

感染症が発症した場合・疑いがある場合には、事務所内で安静に過ごす。

職員：年1回 定期健康診断 ・ 毎月1回 細菌検査

年1回 インフルエンザ予防接種

●衛生管理

・危険箇所、施設の衛生管理についての点検整備を行う

・保育室や玩具などの消毒を行う

・トイレクリーニングの実施

・室内害虫駆除（年2回）

・感染症拡大防止対策

・オゾン発生器設置（感染症対策、空気清浄効果）

・手指消毒アルコールの設置

●安全管理

- ・施設設備点検（月1回）
- ・園庭樹木剪定・毛虫防除対策
- ・保育環境の整備（安全ガード、クッションなどを設置）
- ・ヒヤリハット、メッセージグレードを全職員が把握。分析を行い再発防止に努める
- ・SIDSの防止
（午睡時睡眠チェック 1歳児～2歳児…10分間隔、3歳児～5歳児…15分間隔）

② 地域交流

- ・入園希望者の見学実施
- ・小学生の保育士体験
- ・近隣小学校教員の保育体験受け入れ

③ 実習生・ボランティア

職場体験：北豊島工科高等学校インターンシップ4名
練馬工科高等学校インターンシップ1年生2名
小学校教員保育体験：志村小学校教員2名受け入れ
高校生育児体験：都立高校2年生3名

④ 東京都福祉サービス第三者評価受審

利用者アンケートの回収率は68%、満足度は97%でした。

「多様性を重視する方針の影響か、職員の身だしなみが緩くなっているように感じる」
「感染症が発生している際は、より早い情報発信をしてほしい」といった改善を求める声が寄せられた一方で、「保育園のスタッフは皆、優秀で勤勉な印象を受けました」「どの先生方も子どもの気持ちを大切にしてくださり、安心して預けることができます」
「異年齢児や地域との交流が多く、さまざまな刺激を受ける機会があると感じています」
など、保育内容や職員の関わりについて高い評価をいただき声も多く見受けられました。今後の改善方針としては、いただいたご意見の向き合い、TPOに応じた職員のふるまいを意識するとともに、感染症発生時をはじめとした必要な情報について、より分かりやすく適切なタイミングで発信できるよう努めてまいります。